

草加市立歴史民俗資料館

れきみんだより vol.3



南部藩大名行列図 藩主部分（岩手県立図書館蔵）

企画展「日光道中と参勤交代」開催中

展示期間：9月23日（日）～12月28日（金）/月曜休館/入館無料

毎年開催される「草加宿場まつり」では、参勤交代で日光道中草加宿を往来した東北諸藩に扮した大名行列が催されており、今年は盛岡藩が取り上げられます。

そのため、歴史民俗資料館では、盛岡藩を中心に参勤交代や日光道中をテーマにした企画展「日光道中と参勤交代」を開催します。

参勤交代とは、一年は国元にて領地の政務を行い、一年は江戸に滞在して徳川幕府に忠誠を誓う制度です。正式に制度化されたのは三代将軍・徳川家光が發布した武家諸法度（寛永12年[1635]）からと言われています。そのため、寛永7年（1630）に幕府の裁許を得て、日光道中第2の宿場町に取り立てられた草加宿は、東北諸藩の往来が顕著になりました。

今年の主役である盛岡藩は、現在の岩手県中部から青森県東部にかけての地域を治めた藩です。三代藩主の南部重直が継嗣を定めないまま没したため、お家断絶の危機に見舞われましたが、重直の弟である重信を藩主として新しい盛岡藩が創設されました。

新しい盛岡藩の参勤交代は、寛文6年（1666）に江戸にいた重信が藩主として国元に向かうときから始まります。以降、歴代藩主は参勤交代に際して、奥州道中と日光道中を利用して、国元と江戸を行き来しました。今回の展示では、参勤交代の一連の流れの中で、どのように日光道中や宿場町が利用されたかを見ていきます。ぜひご覧にお越しください。



資料館 2 階の教育資料室に、一台の古めかしい蓄音機が置かれています。蓄音機の正面扉をあけると、銘板が取り付けられており、この蓄音機が昭和7年（1932）に隈部一雄工学博士によって設計されたことが刻まれています。

隈部博士は、明治30年（1897）に生まれ、東京帝国大学工学部を卒業後、東京帝国大学で教鞭をふるい、大正15年（1926）には日本初の自動車性能試験装置を作った自動車工学の研究者として知られています。東京帝国大学の教授職を務めた後、トヨタ自動車工業社長の豊田喜一郎の招きで同社に入り、昭和25年（1950）には副社長を務めました。

そのような経歴を持つ隈部博士は、自動車工学の他にも音響学に深い造詣があり、外国製蓄音機が市場を席巻していた時代に、日本人による国産蓄音機的设计に携わりました。

隈部博士が設計に携わった蓄音機としては、昭和5年（1930）に神林製作所から発売された「キューマーベ」、昭和7年（1932）に名曲堂から発売された「アポロン」が知られています。

資料館の蓄音機を見ていきましょう。資料館の蓄音機も「キューマーベ」という名称で伝わっていますが、神林製作所から発売されたものと構造が異なります。サウンドボックスを見てみると、「KUMBE'S APOLLON. MEIKYO-KUDO」と刻まれており、名曲堂から発売されたアポロンと同型のサウンドボックスが用

いられています。また、ホーン開口部の上部は削られたり、均一に線が刻まれていたり、部分的な改修跡が見受けられ、これらは隈部博士自身の手によるものと伝えられています。このほか、銘板に刻まれた「№4」の文字を踏まえ、資料館の蓄音機は一般販売されたものではなく、隈部博士による4番目の試作機だった可能性があります。

しかしながら、依然として不明な部分も多くあり、隈部博士が設計や監修に携わった蓄音機を調べていく中で資料館の蓄音機の位置付けも解明してくることでしょう。

隈部博士は、昭和13年（1938）に三省堂から出版された『レコード音楽全集』第5巻の中で、「機械的蓄音機」について執筆し、次のように述べています。

我々は成るべくほんたうらしい音を聞くことを以て満足しなければならない。蓄音機発達の歴史とはつまりこのほんたうらしさの増進の歴史に外ならないのである。

（原文縦書き）

本物と同じ音に近づけることにこだわった隈部博士の情熱が注がれている蓄音機は、86年を経た現在も、私たちに素晴らしい音色を届けてくれています。

れきみん歳時記（平成 30 年 6 月～平成 30 年 9 月）
歴史民俗資料館で開催した講座やイベントなどの取組を紹介します

6 月 そうか芭蕉塾を開講しました



15 日（金）、そうか芭蕉塾の第 2 回講座が開催されました。講師は文芸評論家の染谷 洸先生で、『おくのほそ道』草加の条について講義いただきました。また、28 日（木）には筑波大学教授の石塚 修先生に「芭蕉と茶の湯」を演題に講義いただきました。いずれの講座も、参加された方から大変好評をいただき、改めて『おくのほそ道』の奥の深さを感じました。

8 月 夏休み体験教室を開催しました



25 日（土）、夏休み体験教室の一つである藍染め体験を開催しました。白いハンカチを割りばしや輪ゴムですてきな模様に染め上げ、藍色に染まったオリジナルハンカチに大変喜んでいました。資料館のインターンシップに参加していた獨協大学生もお手伝いに加わり、みんなで楽しく藍染め体験を行いました。

7 月 企画展「草加市誕生」が始まりました



10 日（火）、今年で市制施行 60 周年を迎える草加市はどのようにして誕生したのか紹介する企画展「草加市誕生」が始まりました。企画展中は、2 本の企画展講座にギャラリートークを開催し、来館された多くの方に草加市誕生にまつわる歴史を学んでいただくことができました。

9 月 博物館実習生が学びました



1 日（土）から 9 日（日）にかけて、大学で学芸員資格の取得を目指している学生の方たちが、資料館の博物館実習に参加しました。

学芸員として博物館に勤めることは大変なことです、資料館での実習を通じて、多くのことを学んでくれたようです。職員も実習を通じて、日々の業務の改善点を多く認識する貴重な機会となりました。

企画展の次回予告

タイトル：「桃の節句展」

開催期間：平成31年2月1日（木）～3月10日（土）

歴史民俗資料館では、毎年2月に企画展「桃の節句展」を開催し、これまで寄贈いただいた^{ひなかざ}雛飾りや市民の方々が制作したつるし飾りを展示しています。春の訪れを告げる雛祭り。市内で大切にされてきた雛飾りや市民の皆様が制作したつるし飾りをぜひ、ご覧ください。



色鮮やかな雛飾りとつるし飾り

れきみん講座のお知らせ

資料館では、多くの方に草加地域の古代から近代までの歴史を幅広く学んでいただくため、定期的に歴史講座を開催しています。

11月は、企画展講座として^{すぎやましようじ}杉山正司先生を講師に迎え、往来した「旅人」に注目して日光道中草加宿の役割をお話いただきます。ぜひ、ご参加ください。

題名：「日光道中草加宿と旅する人々」

講師：杉山 正司 氏（埼玉県立歴史と民俗の博物館職員）

日時：平成30年11月17日（土）

午後2時から午後4時

定員：60名

申込：10月6日（土）より電話にて受付

草加市立歴史民俗資料館

facebook はじめました！！



皆さんに草加市の歴史や文化、歴史民俗資料館の活動を伝えたくて公式フェイスブックページをつくりました！！
草加市の歴史をもっと知りたい！！、歴史民俗資料館に行きたい！！
そう思っただけの情報を発信していきますので、ぜひご覧ください！

草加市立歴史民俗資料館 🔍

市公式ホームページ内のSNSページからもアクセスできます！
または、隣のQRコードからアクセスすることができます！



草加市立歴史民俗資料館

【開館時間】午前9時～午後4時30分

【休館日】月曜日（その日が休日または振替休日の場合はその翌日）
年末年始

【入館料】無料

〒340-0014

埼玉県草加市住吉一丁目11番29号

T E L : 048-922-0402

E-mail : sokarekimin@city.soka.saitama.jp

アクセス



東武スカイツリーライン「草加駅」下車。東口より徒歩7分。
駐車場が狭小のため、公共交通機関をご利用ください。

れきみんだより vol.3

発行日：平成30年10月10日

編集・発行：草加市立歴史民俗資料館